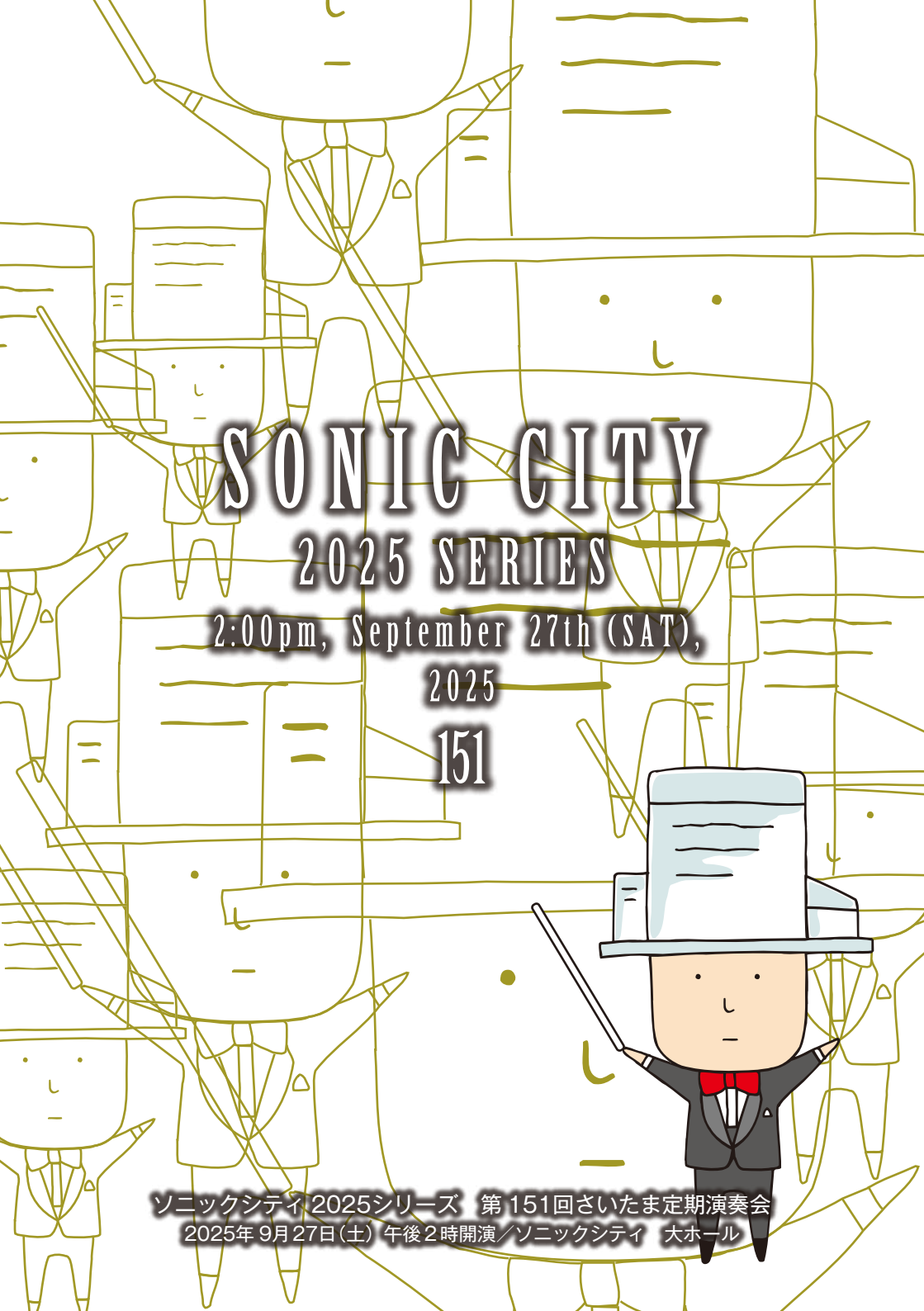




SONIC CITY

2025 SERIES

2:00pm, September 27th (SAT),
2025

151

ソニックシティ 2025シリーズ 第151回さいたま定期演奏会
2025年9月27日(土) 午後2時開演／ソニックシティ 大ホール

第151回さいたま定期演奏会 日本フィルハーモニー交響楽団

サン＝サーンス

ヴァイオリン協奏曲第3番 口短調 op.61 (約32分)

Camille SAINT-SAËNS: Concerto for Violin and Orchestra No.3 in B-minor, op.61

～休憩(20分)～

チャイコフスキー

交響曲第5番 木短調 op.64 (約50分)

Pyotr TCHAIKOVSKY: Symphony No.5 in E-minor, op.64

指揮: **小林研一郎** [桂冠名誉指揮者]

Conductor: KOBAYASHI Ken-ichiro, Honorary Conductor Laureate

ヴァイオリン: **神尾真由子**

Violin: KAMIO Mayuko

コンサートマスター: **木野雅之** [日本フィル・ソロ・コンサートマスター]

Concertmaster: KINO Masayuki, JPO Solo Concertmaster

ライブ配信: **神川町**

本日の公演はメンバーズTVUチャンネルでライブ&アーカイブ配信をしております。

1000円で3ヶ月、何度でもご視聴いただけます。

<https://members.tvuch.com/v/classic/346/>



主催

公益財団法人埼玉県産業文化センター / さいたま市 / 公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団

後援

埼玉県 / 埼玉県教育委員会 / さいたま市教育委員会 / 埼玉県吹奏楽連盟

協賛

株式会社タムロン

【アンケートのお願い】 今後のソニックシティ主催公演参考のため、アンケートへのご協力をお願いいたします。アンケートにお答えいただきました方から抽選で3名様に本日の出演者小林研一郎氏と神尾真由子氏のサイン色紙をお送りいたします。右の二次元コードより、スマートフォン・タブレットからお答えください。(所要時間約5分)



▶全てのプログラム終了時、写真撮影が可能になりました。撮影はスマートフォン・携帯電話のみ、自席にご着席のまま行い、動画撮影はご遠慮ください。是非、コンサートの感動を多くの方と分かち合っていたいただければと存じます。(SNS等への投稿の際は、#ソニックシティ の追加をお願い致します。)



© 山本倫子

指揮：小林 研一郎

東京藝術大学作曲科、及び指揮科の両科を卒業。1974年第1回ブタベスト国際指揮者コンクール第一位、及び特別賞を受賞。2002年プラハの春音楽祭では東洋人初のオープニング「わが祖国」を指揮して万雷の拍手を浴びた。

これまでにハンガリー国立フィル、チェコ・フィル、アーネム・フィル、ロイヤル・コンセルトヘボウ管、フランス国立放送フィル、ローマ・サンタ・チェチーリア国立管、ロンドン・フィル、ハンガリー放送響、N響、読響、日本フィル、都響等の名立たるオーケストラと共演を重ね、数多くのポジションを歴任。

ハンガリー政府よりハンガリー国大十字功労勲章（同国で最高位）等、国内では旭日中綬章、文化庁長官表彰、恩賜賞・日本芸術院賞等を受賞。

2005年、社会貢献を目的としたオーケストラ「コバケンとその仲間たちオーケストラ」を設立、以来全国にて活動を続けている。

現在、日本フィル桂冠名誉指揮者、ハンガリー国立フィル・名古屋フィル・群響桂冠指揮者、読売日響特別客演指揮者、九響名誉客演指揮者、東京藝術大学・東京音楽大学・リスト音楽院名誉教授、ローム ミュージック ファンデーション評議員等を務める。

公式ホームページ <https://maestro-kobaken.com/>



©Makoto Kamiya

ヴァイオリン：神尾 真由子

4歳よりヴァイオリンをはじめる。2007年に第13回チャイコフスキー国際コンクールで優勝し、世界中の注目を浴びた。ニューヨーク・タイムズ紙でも「聴く者を魅了する若手演奏家」「輝くばかりの才能」と絶賛される。国内の主要オーケストラはもとより、チューリッヒ・トーンハレ管弦楽団、BBC交響楽団、ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団、イスラエル・フィルハーモニー管弦楽団、バイエルン州立歌劇場管弦楽団、ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団などと共演するほか、サン・モリッツ、ヴェルビエなどの著名フェスティバルに登場している。ニューヨーク、ワシントン、セントペテルブルク、フランクフルト、ミラノなどでリサイ

タルを行っている。

2020年10月「JSバッハ：無伴奏ヴァイオリンのためのバルティータ」を発表。これまで里屋智佳子、小栗まち絵、工藤千博、原田幸一郎、ドロシー・ディレイ、川崎雅夫、ザハール・ブロンの各氏に師事。大阪府知事賞、京都府知事賞、第13回出光音楽賞、文化庁長官表彰、ホテルオークラ音楽賞はじめ数々の賞を受賞。楽器は宗次コレクションより貸与されたストラディヴァリウス1731年製作「Rubinoff」を使用している。東京音楽大学教授。

舞 ～舞台からの調べ、舞踏への誘い～

サン＝サーンス ヴァイオリン協奏曲第3番 口短調 op.61

19世紀後半から20世紀初頭、フランス音楽界の代表的存在として活躍したカミーユ・サン＝サーンス (1835-1921)。とはいえ、彼は「フランス色」の濃い作品だけを書いただけではない。

むしろサン＝サーンスは、ヨーロッパ各地の音楽に興味を示した。スペインを代表する同時代人の超絶技巧ヴァイオリニスト、パブロ・デ・サラサーテ (1844-1908) の演奏に刺激を受けたのもその証。1880年に作られた『ヴァイオリン協奏曲第3番』も、同年おこなわれた初演で、ヴァイオリン独奏にサラサーテを迎えている。そしてこの協奏曲の例えば第1楽章に独奏ヴァイオリンが奏でるメロディにも、スペイン風の情熱が滾っている。

ユニークなのは、やはりサラサーテを意識した前作の『ヴァイオリン協奏曲第1番』『同第2番』に比べると、高度の演奏技術にも増して、旋律の豊かさや繊細さといった芸術性が求められている点。つまり演奏者にとっては、この両方を十二分に表現しなければならないという、手強い内容となっている。

特にそうした特徴が顕著に表れているのが、静謐で内省的な第2楽章、そして第2楽章からはほぼ間断なく始まる第3楽章の最終部分だ (逆に通常の協奏曲では全曲の半分近く of 長さ を締めることの多い第1楽章は、第2・3楽章とほぼ同じ演奏時間となっている)。特に第3楽章は、イタリアの民族舞踊「タランテラ」のリズムを基本としながら、最後には自作の『ピアノ協奏曲第4番』の終結部にも登場するコラル (賛歌／讃美歌) 風のメロディが現れ、宗教的な神々しさを湛えた法悦の瞬間が訪れる。

チャイコフスキー 交響曲第5番 木短調 op.64

サン＝サーンスとはほぼ同時代、ロシアを中心に活躍したピョートル・チャイコフスキー (1840-93)。そんな彼が、1888年に書いたのが『交響曲第5番』である。なおチャイコフスキーをはじめとする当時の多くの音楽家は、ルートヴィヒ・ファン・ベートーヴェン (1770-1827) を偉大な先達として仰いでおり、この『交響曲第5番』もベートーヴェンの「交響曲第5番」(通称「運命」) を意識して、闇から光へと至る音楽の旅が劇的に展開される。

ただし「闇から光へ」とはいえ、その中身がベートーヴェンのそれと随分と異なっているのもたしかだ。チャイコフスキーの場合、運命との闘争というよりかは、運命に打ちひしがれるかのような動機 (いわゆる「運命の動機」) が曲の冒頭に示され、交響曲全体を通じて執拗なまでに繰り返されてゆくからである。

チャイコフスキーは自らの体験をしばしば作品に投影させたが、彼自身、当時犯罪扱いされていた同性愛的な傾向を持っていることに度々苦しんだ。さらに時は、19世紀も後半。この世紀の最初に誕生した近代市民社会の輝きの裏側で、公害や恐慌や貧富の差などの社会問題が起る中、当の19世紀的な価値観にも疑念が呈され始めていた。

そうした状態が、冒頭の陰鬱な「運命の動機」、あるいはそれを基とした第1楽章の第1主題をなす行進曲風のメロディに影響を与えているとはいえないだろうか。それは闘いのための行進ではなく、激しさを増す箇所があっても、様々な恨みつらみが爆発するかのようだ。

第2楽章も、ホルンに先導される儂い憧れを宿した旋律がこの楽章の主軸を成しているが、それも突如現れた運命の動機の前にもろくも崩れ去る。交響曲の中に、舞踏音楽のワルツをあえて採り入れるという実験の姿勢が現れた第3楽章でさえ、吹けば飛ぶような儚さが基調となっている。そしてついに運命と戦い、決定的な勝利が訪れる第4楽章においてすら、その輝かしいコーダでは、逆にしつこいまでに勝利が念押しされてゆく。

オペラと音楽

2025年10月、新作オペラ「平家物語—平清盛—」の初演が、大宮ソニックシティの主催によって行われます。それを記念して今シーズンのコラムでは、日本フィルさいたま定期演奏会で取り上げられる作曲家と「オペラ」や「歌」の関係にまつわるエピソードをお届けします。

「ヒット・オペラ」の秘密!?



パリのオペラ座（通称「ガルニエ宮」）の巨大ロビー。様々な社交が繰り広げられている。ルイ・ペルー画。1877年。

第149回の日本フィルさいたま定期演奏会のプログラムでも書いたように、ヨーロッパにおいては伝統的に、オペラを書いて成功することは作曲家の夢であり、またステイタスだった…。またそれを証明するかのように、サン＝サーンスもチャイコフスキーも、交響曲や協奏曲といった様々なジャンルの曲を手掛ける一方、ともに10曲以上のオペラを遺している。

ただしサン＝サーンスのオペラで現在でも上演回数が多いのは、『サムソンとデリラ』、チャイコフスキーの場合は『エフゲニー・オネーギン』（さらにあえて次点を挙げるとすれば『スベードの女王』）くらいか？ しかも前者はパリのオペラ座から上演を拒否された挙句、演奏会形式で第1幕だけ上演されたが、酷評を受けた。後者も、初演にあたったのは音楽院の学生たちで、しかも失敗に終わった。

だが、外国での上演が風向きを変える。前者に関しては、この作品に興味を持った著名な指揮者でありピアニストであり、また作曲家でもあった

リスト（1811-86）が、当時自らが楽長を務めていたドイツのワイマールの劇場での上演に奔走した。結果、全曲初演は成功を取め、その評判がフランスにも届いて、ようやくこの作品は受け入れられていった。

後者については、その後作られた改訂版がロシアで成功を取めたものの、やはり世界的評判を博すためには、外国での上演が鍵となる。実際チャイコフスキー自らがプラハやハンブルクで指揮をおこなうことで（ただしハンブルクでの作曲者自作自演は実現せず、かわりにグスタフ・マーラーが指揮をした）、この作品は広く知られるようになった。

もちろんドイツ（プラハも当時は、ドイツ語を公用語とするオーストリアの支配下にあった）での上演にあたっては、この頃のオペラ上演の慣習に基づき、オリジナルのフランス語なりロシア語なりが、ドイツ語に翻訳／翻案されている。こうした「緩い対応」もまた、オペラが国際的ヒット作となるにあたっては重要だったのだろう。何しろオペラは、元々はかしこまって鑑賞するものではなく、華やかな社交の場を彩る一大エンタテインメントだったのだから。

第151回さいたま定期演奏会に寄せて

この度は第151回さいたま定期演奏会の開催を心よりお慶び申し上げます。

今回、ステージ左側には樹齢約100年のトネリコを展示させて頂きました。トネリコは、温暖な山地に分布する日本原産種の落葉高木でございます。和名の由来は、本種の樹皮に付着している蠟物質にあり、動きの悪くなった敷居の溝にこの蠟を塗って滑りを良くしていたことから「戸に塗る木」と呼ばれ、やがて転訛して「トネリコ」と発音されるようになったと考えられております。

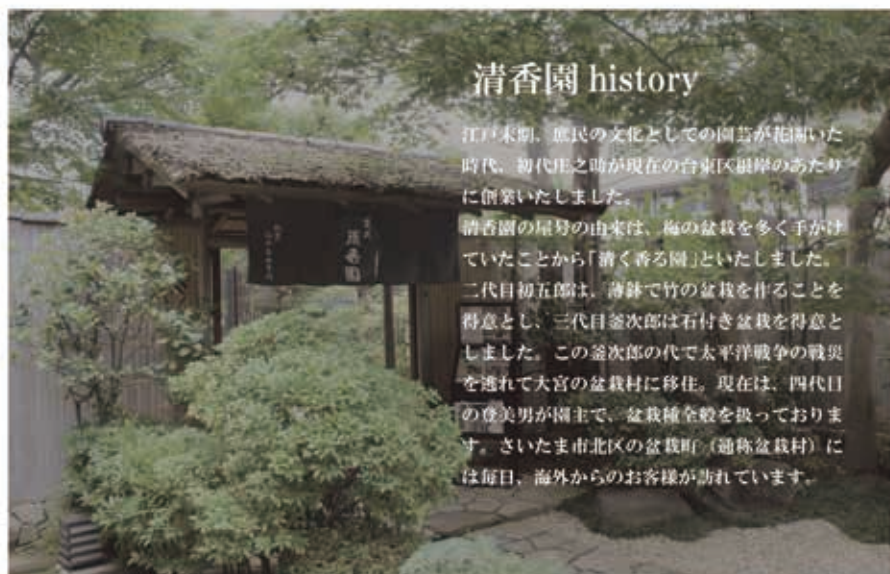
本作は半懸崖という崖から垂れ下がるような樹形に仕立てられ、山の斜面などに根を張り生きる樹木の力強さを表現しております。

右側には、樹齢約100年の蝦夷松(エゾマツ)を展示させて頂きました。蝦夷松は、北海道を中心に日本の北部地域に自生する常緑針葉樹で、日本の伝統的な庭園や公園、街路樹などで広く利用される、風格ある美しい景観を作り出すための重要な樹種の一つです。本作は下枝を敢えて残さず仕立てることで、厳しい環境下で枝を淘汰しながらも生き永らえる、蝦夷松らしい姿を表現しております。逞しく佇むその姿には、風が吹き抜ける自然の情景を想起させられます。

オーケストラの演奏と、盆栽の景色の調和をお楽しみいただけましたら幸甚に存じます。

盆栽清香園 山田寅幸





清香園 history

江戸末期、庶民の文化としての園芸が花開いた時代、初代庄之助が現在の台東区根岸のあたりに創業いたしました。

清香園の屋号の由来は、梅の盆栽を多く手がけていたことから「清く香る園」といたしました。

二代目初五郎は、薄鉢で竹の盆栽を作ることを得意とし、三代目釜次郎は石付き盆栽を得意としました。この釜次郎の代で太平洋戦争の戦災を逃れて大宮の盆栽村に移住。現在は、四代目の登美男が園主で、盆栽種全般を扱っております。さいたま市北区の盆栽町（通称盆栽村）には毎日、海外からのお客様が訪れています。

お客様に一番身近な「窓口」としての 専門店を目指して

盆栽園という枠組みに捉われず、
お客様に寄り添う専門店を実現していきます。



日本フィルハーモニー交響楽団
第152回さいたま定期演奏会
2025 **11.15** SAT
開場13時 開演14時

指揮：西本智実 ヴァイオリン：金川真弓
曲目：ベートーヴェン／ヴァイオリン協奏曲
ドビュッシー／小組曲
ラヴェル／ボレロ

公演詳細
QRコード

©本間直樹 ©Victor Marlin

日本フィル・ソニックシティ
「第九」演奏会2025
2025 **12.12** FRI
開場18時 開演19時
指揮：出口大地
ピアノ：鈴木愛美（第12回浜松国際ピアノコンクール第1位）
ソプラノ：砂田愛梨 メゾソプラノ：山下裕賀
テノール：石井基幾 バリトン：高橋宏典
合唱：埼玉第九合唱団
曲目：ベートーヴェン／ピアノ協奏曲第2番
ベートーヴェン／交響曲第9番「合唱」

公演詳細
QRコード

©hiro.pberg_berlin ©Satoru Masuko ©Yoshinobu Fukaya ©FUKAYAauraY2 ©hiro.photo

日本フィルハーモニー交響楽団
第153回さいたま定期演奏会（バレエ公演）
2026 **1.31** SAT
開場13時20分 開演14時
指揮：飯森範親 バレエ：牧阿佐美バレエ団
曲目：★印＝バレエ付き
シェラウスⅡ世／美しく青きドナウ／トリッチ・トラッチ・ポリカ★／ポリカ「元氣にやろうぞ」／ポリカ「ハンガリー万歳」
ハチャトゥリアン／仮面舞踏会～ワルツ★
チャイコフスキー／白鳥の湖からワルツ／「惜別（第2幕冒頭）」★／くるみ割り人形から「ドレック」★／「花のワルツ」★
ドヴォルジャーク／交響曲第9番「新世界より」

公演詳細
QRコード

©山岸伸 ©山崎康夫

日本フィルハーモニー交響楽団
第154回さいたま定期演奏会
2026 **3.28** SAT
開場13時 開演14時
指揮：尾高忠明 ピアノ：牛田智大
曲目：ベートーヴェン／ピアノ協奏曲第5番「皇帝」
ベートーヴェン／交響曲第5番「運命」

公演詳細
QRコード

©Martin Richardson ©Ariga Terasawa

会場：ソニックシティ 大ホール

※演奏・曲目変更もございます。予めご了承ください。

■チケット価格（単独券）

S：6,000円 A：4,500円 B：3,500円 Ys：2,000円（11.15/1.31/3.28）

S：7,000円 A：5,500円 B：4,000円 Ys：2,000円（12.12）

ホールメンバーズ、チョイス券など、各種割引あり

好評発売中！

人類の音楽史絵巻（全4章）
2026 **3.22** SUN
開場14時 開演15時
脚本・指揮：西本智実
管弦楽：イルミナードフィルハーモニーオーケストラ
会場：ソニックシティ 大ホール

公演詳細
QRコード

チケット価格
各種プレイガイドで販売中！
S席：12,000円 A席：10,000円 B席：8,000円

©堀隆弘

SONIC CITY SERIES 2026

日本フィルハーモニー交響楽団さいたま定期演奏会

生

vol. 155

生命の躍動 人生への感謝
2026年5月30日(土) 14時開演
指揮 鈴木保人 フルート Cocomi



激

vol. 156

激動の時代 激情の結晶
2026年7月3日(金) 19時開演
指揮 吉本智美 ピアノ 賀川風



幻

vol. 157

理想の幻境 怪異への幻惑
2026年9月24日(土) 14時開演
指揮 小林研一郎
ヴァイオリン 関勝英介



愁

vol. 158

故郷への哀愁 開かれる愁眉
2026年11月7日(土) 14時開演
指揮 広上淳一 チェロ 宮田大



舞

vol. 159

妙なる舞曲 華麗なる演舞
2027年1月23日(土) 14時開演
指揮 山下一定
バレエ 秋岡松葉バレエ団



唱

「第九」演奏会2026
友愛への唱和 理想への絶唱
2026年12月19日(金) 19時開演
指揮 藤岡晴 (ソプラノ) 岡崎彩夏
カラテカ・テナー 藤本大地 ラッパル 小堀美介
バソーン 池内豊 合奏 埼玉県九会合唱団



熱

vol. 160

湧き上がる情熱 噴き出る熱狂
2027年3月20日(土) 14時開演
指揮 藤岡幸夫 ピアノ 仲道朝代




SONIC CITY

〈2026年シリーズの聴きどころ〉チャイコフスキーの人生が波乱と充実にあちていた時代に生み出された「後期三大交響曲」を、1つのシーズンで体験できます。

開催場所・ソニックスイタホール | チケット料金(税込) 前155回 ~ 第160回 S席 6,000円 / A席 4,500円 / B席 3,500円 / Ya席 2,000円 | 「第九」演奏会2026 S席 7,000円 / A席 5,500円 / B席 4,000円 / Ya席 2,000円





Sonic City Dance シリーズ



社会人のための
ダンスワークショップ
7月3日(木)～

ダンスフリースタイル 2025
8月2日(土)

ソニックダンスステージ 2026
2026年
2月7日(土)



日本フィルハーモニー交響楽団



©山本倫子

指揮:小林研一郎[桂冠名誉指揮者]

J.シュトラウスⅡ世
ワルツ《美しく青きドナウ》

J.シュトラウスⅡ世/ヨーゼフ・シュトラウス
ピツィカート・ポルカ

スメタナ
交響詩《モルダウ》

ドヴォルジャーク
交響曲第9番《新世界より》

S ¥8,500 A ¥7,000 B ¥6,000 C ¥6,000 P ¥4,500
Ys (25歳以下) ¥2,500 Gs (70歳以上) ¥5,000

好評
発売中

第412回
名曲コンサート

2026.

111

14:00
(日)

サントリーホール

NEW
YEAR
CONCERT
2026



指揮・ヴァイオリン:
ヴィルフリート・和樹・ヘーデンボルク
ベートーヴェン
《献堂式》序曲

モーツァルト
ヴァイオリン協奏曲第3番

ヨーゼフ・シュトラウス
ワルツ《我が人生は愛と喜び》

ヨハン・シュトラウスⅡ世
アンネン・ポルカ / ポルカ・シュネル《浮
き立つ心》 / ワルツ《ウィーン気質》 /
ポルカ《帝都はひとつ、ウィーンはひと
つ》 / ワルツ《芸術家の生活》

S ¥9,500 A ¥8,000 B ¥7,000 C ¥6,000 P ¥5,000
Ys (25歳以下) ¥2,500

好評
発売中

第414回
横浜定期演奏会

2026.

124

15:00
(土)

横浜みなとみらいホール

※Gs・Ys席は5席以外から選べます ※未就学児の入場はご遠慮ください。※出演者、曲目等は変更される場合がございます。予めご了承ください。



お申込み
お問合せ

日本フィル・サービスセンター

TEL: 03-5378-5911 / eチケット: <https://eticket.japanphil.or.jp>
(平日10時~17時)

世界が認めた光学技術

タムロンは、あらゆる分野の光学製品を開発・製造する総合光学機器メーカーです。

その中でも、ミラーレスカメラ／デジタル一眼レフカメラ用交換レンズは、独創的な仕様、優れた描写力、画期的なコンパクト設計、操作性の良いデザインにより、世界中で高く評価されています。

私たちはこれからも、独自の先端光学技術により、さまざまな事業分野における製品を通じて、社会の感動と安心を創造してまいります。



主な取扱い製品

ミラーレスカメラ用交換レンズ、一眼レフカメラ用交換レンズ、監視カメラ用レンズ、FA/マシンビジョン用レンズ、TV会議用レンズ、カメラモジュール、車載カメラ用レンズ、ビデオカメラ用レンズ、デジタルカメラ用レンズ、ドローン用レンズ、医療用レンズ、各種光学用デバイス部品 他



株式会社タムロン

〒337-8556 埼玉県さいたま市見沼区蓮沼1385番地

<https://www.tamron.com/jp/>

TAMRON
Focus on the Future